

1-1 建物概要

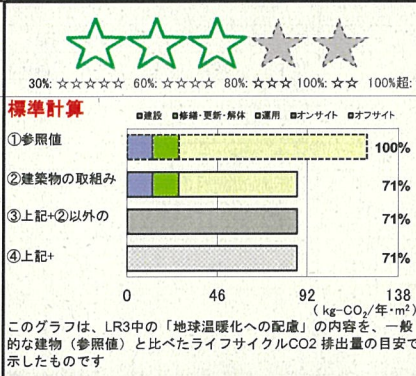
建物名称	(仮称)鳥取県立美術館
建設地	鳥取県倉吉市駄経寺町2丁目3-12
用途地域	都市計画区域内 商業地域、準防火地域
地域区分	5地域
建物用途	集会所
竣工年	2024年3月 予定
敷地面積	13,610.73 m ²
建築面積	5,347.72 m ²
延床面積	10,598.89 m ²

階数	地上3F
構造	RC造、一部S造・SRC造
平均居住人員	600 人/日
年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2021年12月1日
作成者	横総合計画事務所・竹中工務店設計共同企業体
確認日	2022年2月10日
確認者	横総合計画事務所・竹中工務店設計共同企業体

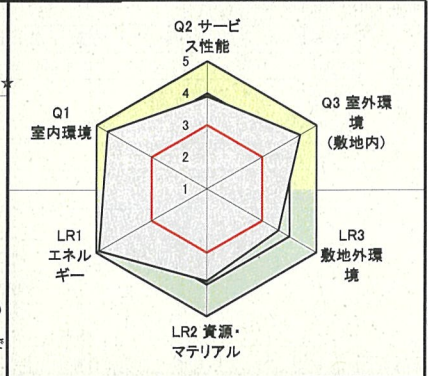
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

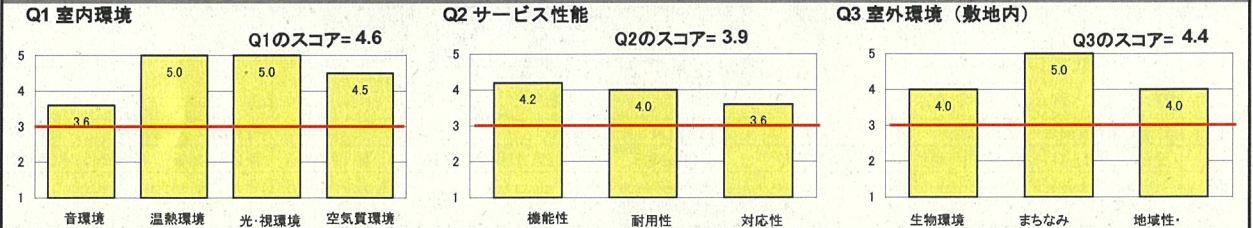
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

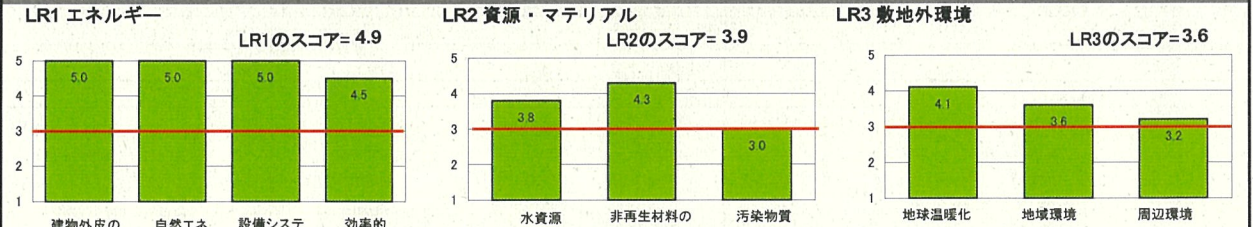


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質



LR 環境負荷低減性



3 設計上の配慮事項

総合	その他
・地域の自然・歴史・文化を創造的に継承した種やかな姿と内外が一体となった開かれた美術館の実現 ・先進的環境技術による快適な鑑賞環境・収蔵保管の安全性・省エネルギーに配慮した設備計画 ・耐火性、耐震性に優れた鉄筋コンクリート造と、大スパン架構に適した鉄骨梁による、堅牢性と開放性を両立した構造計画	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
・展示室における視覚性の高い建材の使用 ・Low-e複層ガラス、断熱材の厚み確保による熱貫流率の低減 ・上下温度差が少なく、居住性における気流通の小さい空調システムの採用 ・トップライト、テント屋根による昼光利用 ・F☆☆☆☆ランクかつVOCの放散量が少ない建材の採用 ・居室の換気量は1人あたり30m ³ /hを確保	・エコマテリアルの積極採用(パースによる内装等の事前検証) ・建築基準法の25%増の保有力確保 ・雨水利用、雨水利用による災害時水源のバックアップ ・停電時の非常用発電機によるバックアップ ・重要空調機の相互バックアップ
Q3 室外環境(敷地内)	
・まちなみと調和した外装デザイン ・ホルダー、フローリング等に県産木材を使用 ・隣接した敷地と連続性のある緑化空間の構築 ・歴史公園である大宮堂跡に配慮した景観形成	
LR1 エネルギー	LR2 資源・材料
・太陽光による日射遮蔽効果 ・Low-e複層ガラスの採用による日射熱取得の軽減 ・吹き抜け空間における雨水を熱源とした床ふく射空調の採用 ・ひんやり、ギョウリにおける明るさセンサーによる照明制御 ・空調機系統のインバータ制御による風量の調整 ・全館LED照明の採用 ・電力回生機能付きエレベータの採用	・節水型便器の採用 ・雨水の中水利用 ・有害物質を含まない材料の採用 ・リサイクル可能な建材の使用
LR3 敷地外環境	
・緑地の確保などによる、ヒートアイランド現象の抑制 ・燃焼機器の不燃による大気汚染への配慮 ・駐輪スペースの確保による交通負荷の抑制 ・星空保全条例に適合した外構照明計画	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される